

灰原 佑紀\*1 村野 友昭\*1 前川 将之\*1 森本 崇役\*1 富野 武紀\*2 大藪 崇宏\*2 飯沼 敏範\*2

※1 関西電力送配電株式会社 ※2 京セラ株式会社

【背景・目的】

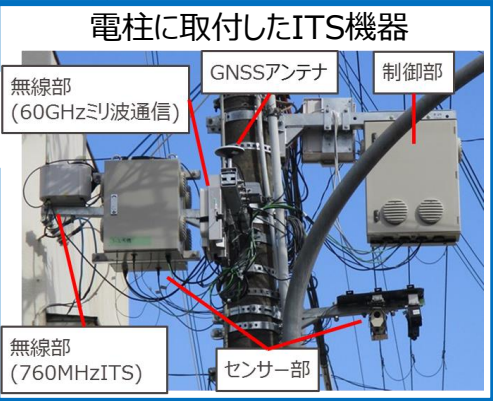
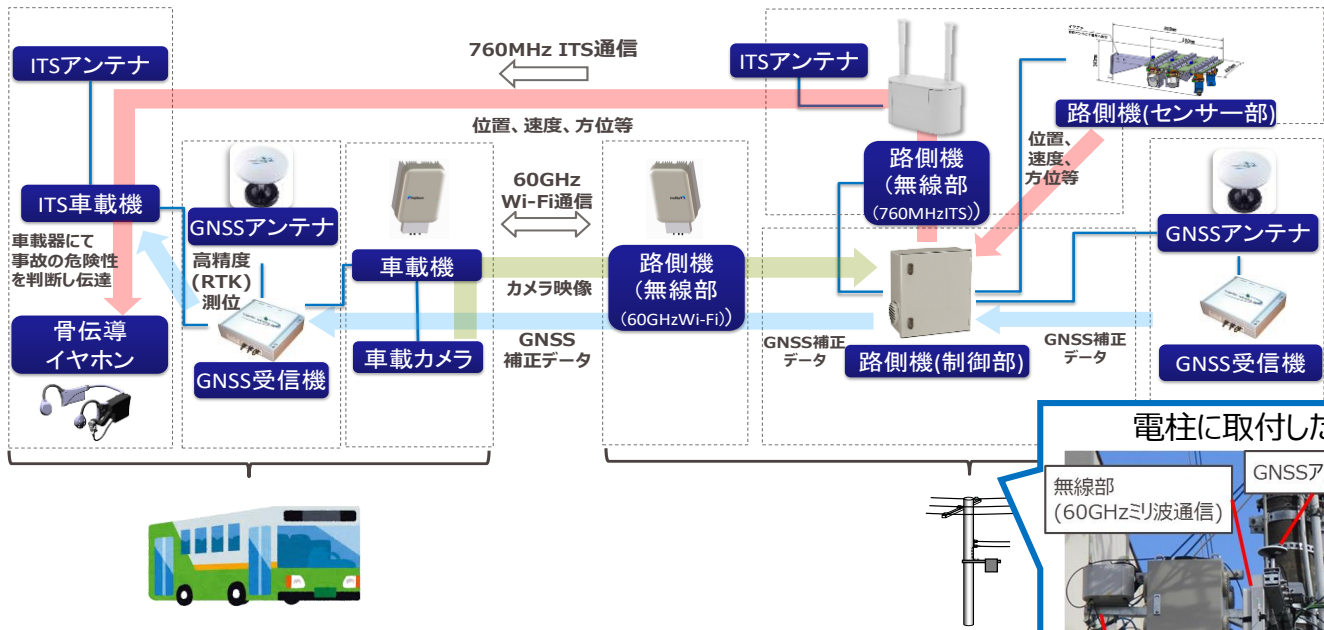
交差点における出会い頭の事故は多く、現状車載センサのみでの回避は困難である。  
そこで電柱や自転車にITS機器を設置し、動的情報の検知を行い、**衝突危険性がある場合に  
運転者へ危険通知**することで事故の未然防止につながるか実証を行った。



路車間通信実証イメージ

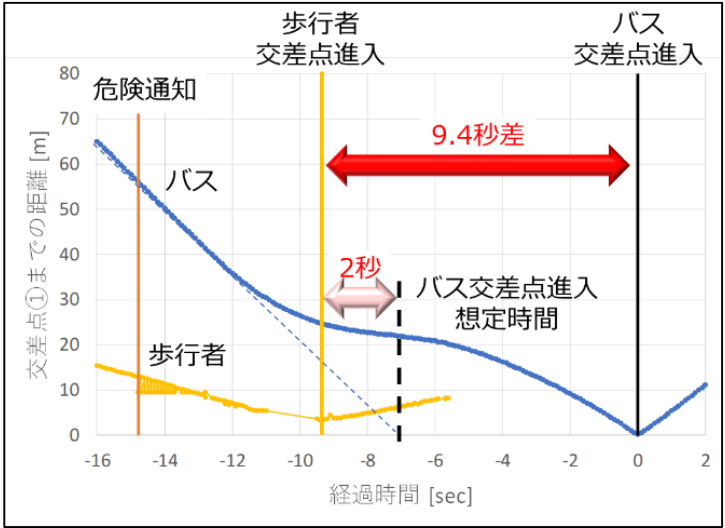
車車間通信実証イメージ

＜システム構成（路車間通信）＞



【実証結果】

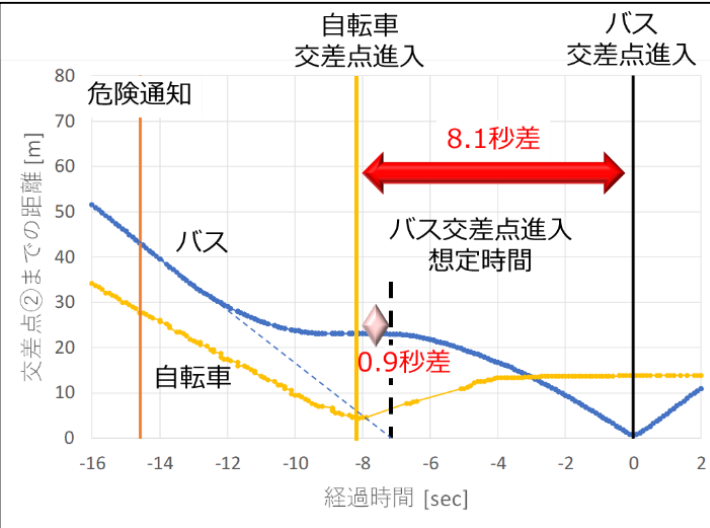
今回の実証において路車間通信、車車間通信のどちらにおいても、バスと、歩行者や自転車が**交差点へ進入する時間差が拡大**することを確認出来た。  
また運転者へのアンケート結果からも、**安全運転支援の効果があるという評価**を得ることが出来た。  
本結果を踏まえ、今後もインフラ協調の運転支援の実用化を目指していきたい。



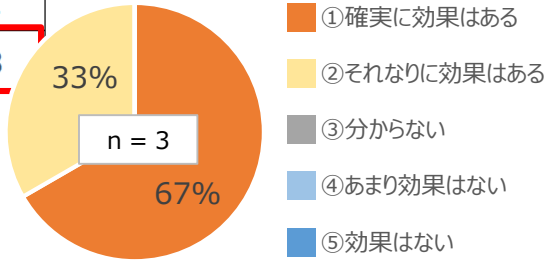
路車間通信における交差点までの距離情報

運転者	交差点① (対 歩行者)		交差点② (対 自転車)		全体平均	
	支援なし	支援あり	支援なし	支援あり	支援なし	支援あり
運転者1	1.6	3.6	—	—	1.6	3.6
運転者2	2.0	9.1	0.9	8.1	1.6	8.8
運転者3	0.7	4.2	—	—	0.7	4.2
全体平均	1.6	6.5	0.9	8.1	1.4	6.8

交差点進入時間差の平均値(単位:秒)



車車間通信における交差点までの距離情報



安全運転支援の効果に関するアンケート結果